

2019年3月期 第2四半期決算説明会



スズキ株式会社
2018.11.1

7~9月期はインドルピー安等により減収・営業利益減益
4~9月期は過去最高というものの減速

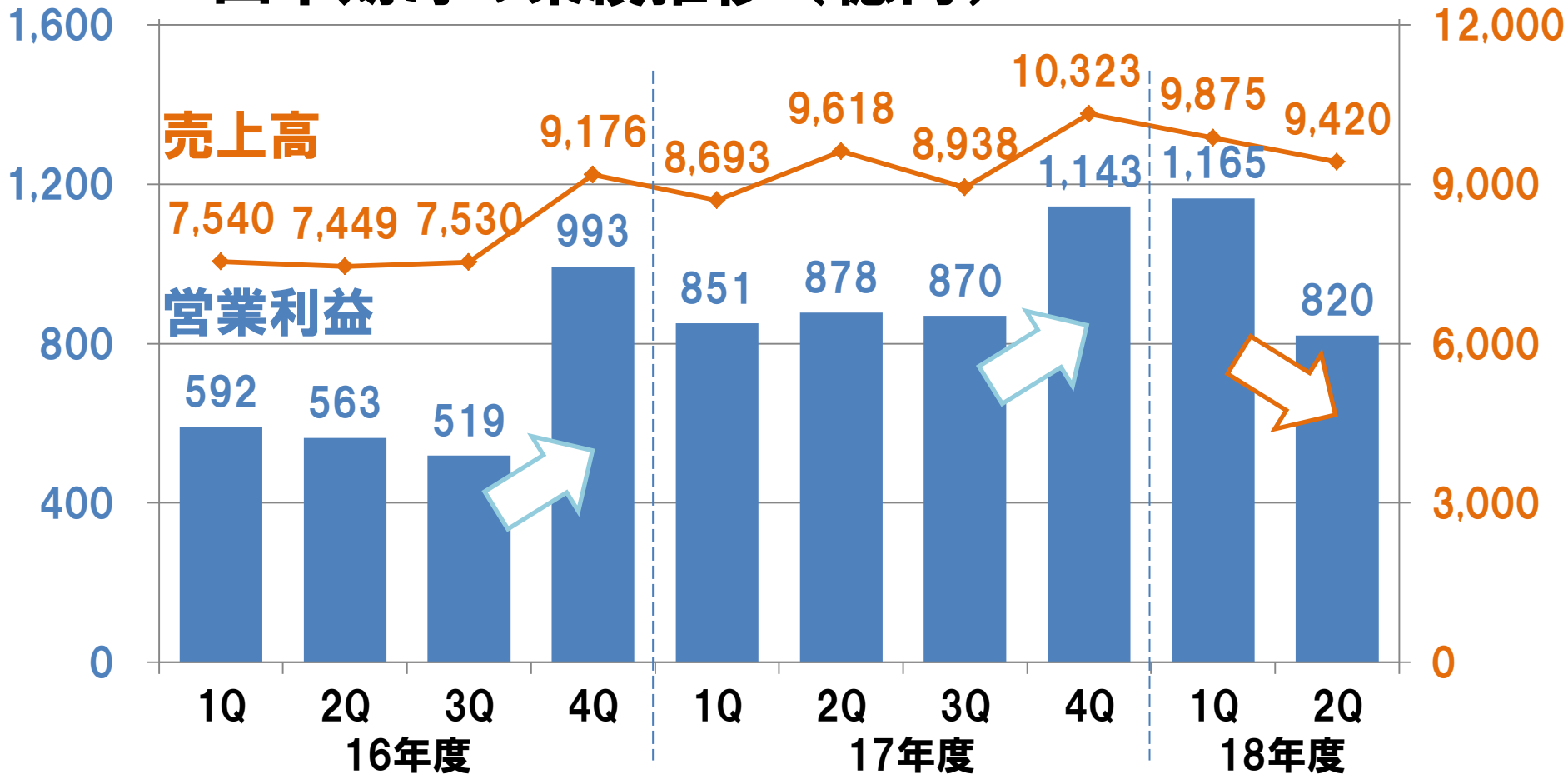
第2四半期実績

- **連結業績** … 増収増益、売上高・各利益過去最高※1
 - 売上高 1兆9,294億円、前年同期比+ 5.4% 2期連続増収
 - 営業利益 1,985億円、前年同期比+14.8% } 7期連続増益
 - 経常利益 2,323億円、前年同期比+24.3% }
 - 四半期純利益※2 1,362億円、前年同期比+30.7% 9期連続増益
 - ・増収…日本での四輪車の販売増、インドでの四輪車、二輪車の販売増等
 - ・増益…アジア、日本での損益改善等
- **四輪世界販売** … 1,699千台（前年同期比+ 7.5%）で過去最高※1
 - ・インド、日本、インドネシア等で増加
- **二輪世界販売** … 878千台（前年同期比+10.2%）
 - ・インド、インドネシア等で増加
- **中間配当** … 前回予想37円を据置き

※1. 第2四半期累計期間として過去最高 ※2. 四半期純利益は親会社株主に帰属する四半期純利益

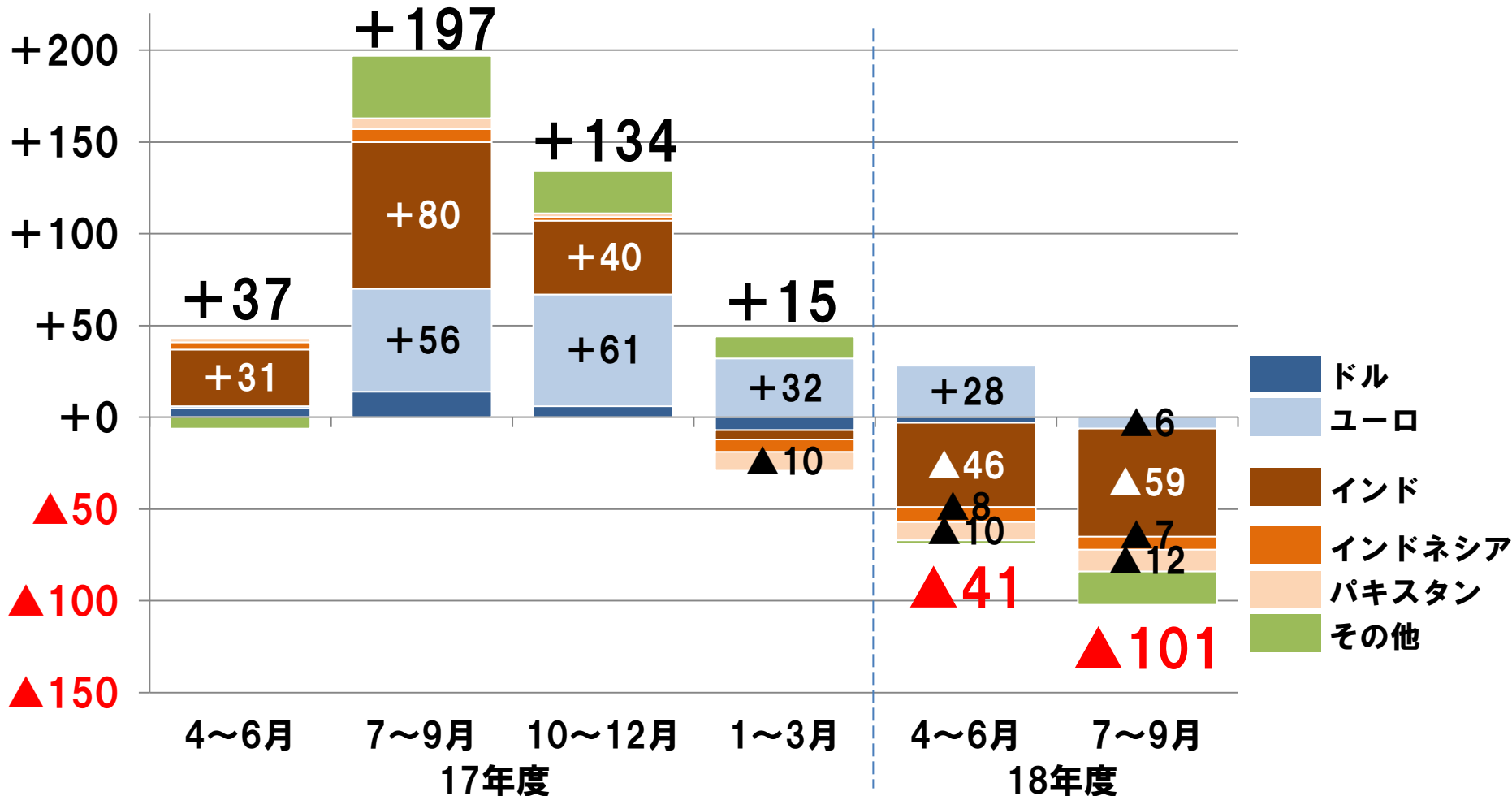
7～9月期は4～6月期に比べ大幅に減収減益、
さらに前年同期に比べても減益

四半期毎の業績推移（億円）



インド、インドネシア、パキスタンなど新興国通貨安が影響

四半期毎の前年同期比営業利益為替影響(億円)



第2四半期までの実績を反映するとともに、
今後の販売、為替見通し等を反映

通期業績予想

●通期業績予想

売上高	3兆8,000億円、前期比+1.1%、	前回予想比±	0億円
営業利益	3,500億円、前期比▲6.5%、	前回予想比+	100億円
経常利益	3,900億円、前期比+1.9%、	前回予想比+	400億円
当期純利益※	2,200億円、前期比+2.0%、	前回予想比+	150億円

		ドル	ユーロ	インド	インドネシア※	タイ	パキスタン
下期	期初	105円	130円	1.65円	0.78円	3.30円	0.95円
レート	変更後	105円	130円	1.50円	0.75円	3.30円	0.85円

●四輪世界販売 … 3,338千台、前回予想比+39千台

- ・日本、アジア（インド…前期比6%増→8%増）を上方修正

●二輪世界販売 … 1,708千台、前回予想比+62千台

- ・アジア等を上方修正

●期末配当予想 … 前回予想37円を据置き

※ 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益、インドネシアは100ルピア当り

増収増益、売上高・各利益過去最高

(億円)	当第2四半期 (’18/4-9)	前年同期 (’17/4-9)	増 減	
			増	減 増減率
売上高	19,294	18,311	+983	+5.4%
国内売上	5,986	5,314	+672	+12.6%
自 社	5,461	4,812	+649	+13.5%
O E M	525	502	+23	+4.5%
海外売上	13,308	12,997	+311	+2.4%
営業利益 (利益率)	1,985 (10.3%)	1,729 (9.4%)	+256	+14.8%
経常利益 (利益率)	2,323 (12.0%)	1,869 (10.2%)	+454	+24.3%
親会社株主に帰属 する四半期純利益 (利益率)	1,362 (7.1%)	1,042 (5.7%)	+320	+30.7%

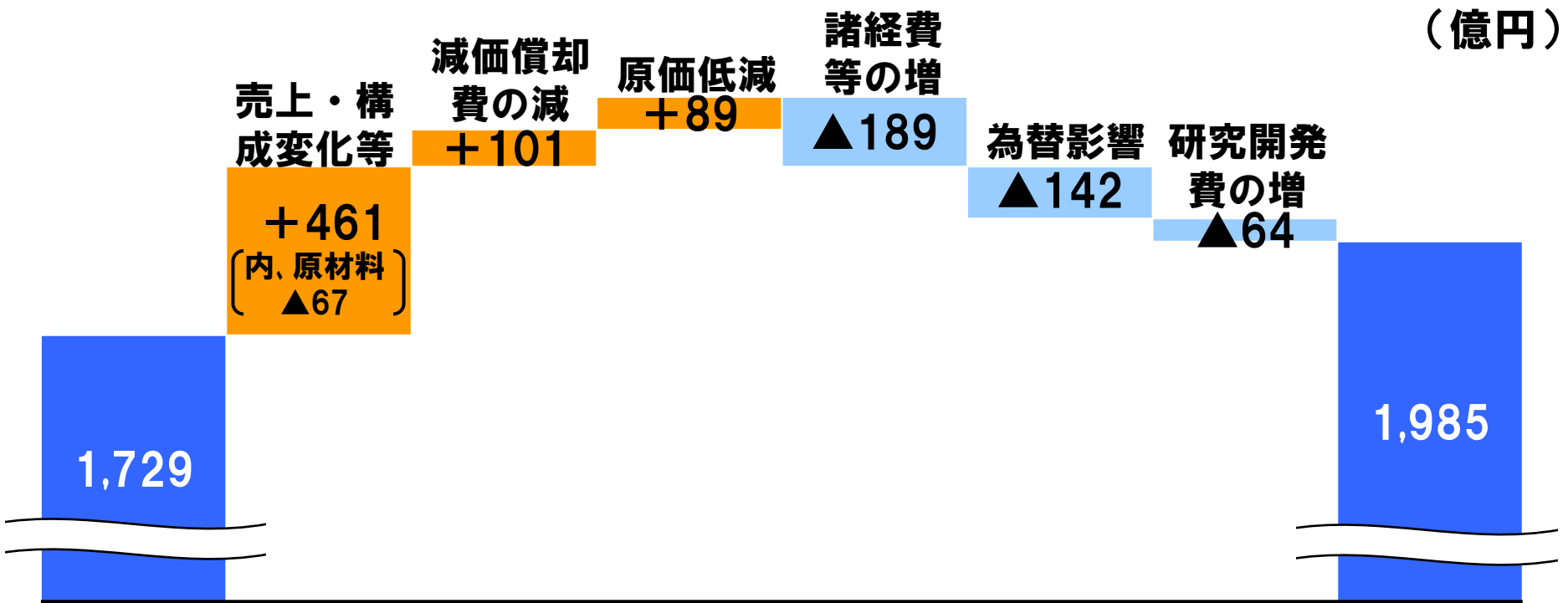
各事業で増加、国内・海外・連結とも過去最高※

(億円)	四輪			二輪			マリン他			合計			内、為替 換算影響
	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	
国内計	5,807	5,119	+688	105	118	▲13	74	77	▲3	5,986	5,314	+672	
自 社	5,282	4,617	+665	105	118	▲13	74	77	▲3	5,461	4,812	+649	
OEM	525	502	+23							525	502	+23	
海外計	11,806	11,572	+234	1,158	1,126	+32	344	299	+45	13,308	12,997	+311	▲626
欧州	2,075	2,235	▲160	204	240	▲36	87	86	+1	2,366	2,561	▲195	+73
北 米	7	8	▲1	149	156	▲7	178	137	+41	334	301	+33	▲2
アジア	8,548	8,150	+398	647	557	+90	32	29	+3	9,227	8,736	+491	▲669
インド	6,636	6,213	+423	278	223	+55	3	2	+1	6,917	6,438	+479	▲523
〃以外	1,912	1,937	▲25	369	334	+35	29	27	+2	2,310	2,298	+12	▲146
その他	1,176	1,179	▲3	158	173	▲15	47	47	▲0	1,381	1,399	▲18	▲28
総合計	17,613	16,691	+922	1,263	1,244	+19	418	376	+42	19,294	18,311	+983	▲626
内、為替 換算影響			▲588			▲39			+1				▲626

注. 当期…2018年4～9月期、前期…2017年4月～9月期、北米…米国・カナダ、北米四輪車…部品用品等

※第2四半期累計期間として過去最高

(億円)



前年同期
営業利益

当第2四半期
営業利益

増益要因 +651

減益要因 ▲395

営業利益 +256

	当第2四半期 (’18/4-9)	前年同期 (’17/4-9)	増 減	営業利益 為替影響
米ドル	110円	111円	▲1円	▲2億円
ユーロ	130円	126円	+4円	+22億円
インドルピー	1.62円	1.74円	▲0.12円	▲105億円
インドネシアルピア (100ルピア当り)	0.78円	0.84円	▲0.06円	▲15億円
タイバーツ	3.40円	3.28円	+0.12円	▲3億円
パキスタンルピー	0.92円	1.06円	▲0.14円	▲22億円
その他	—	—	—	▲17億円 ※
計				▲142億円

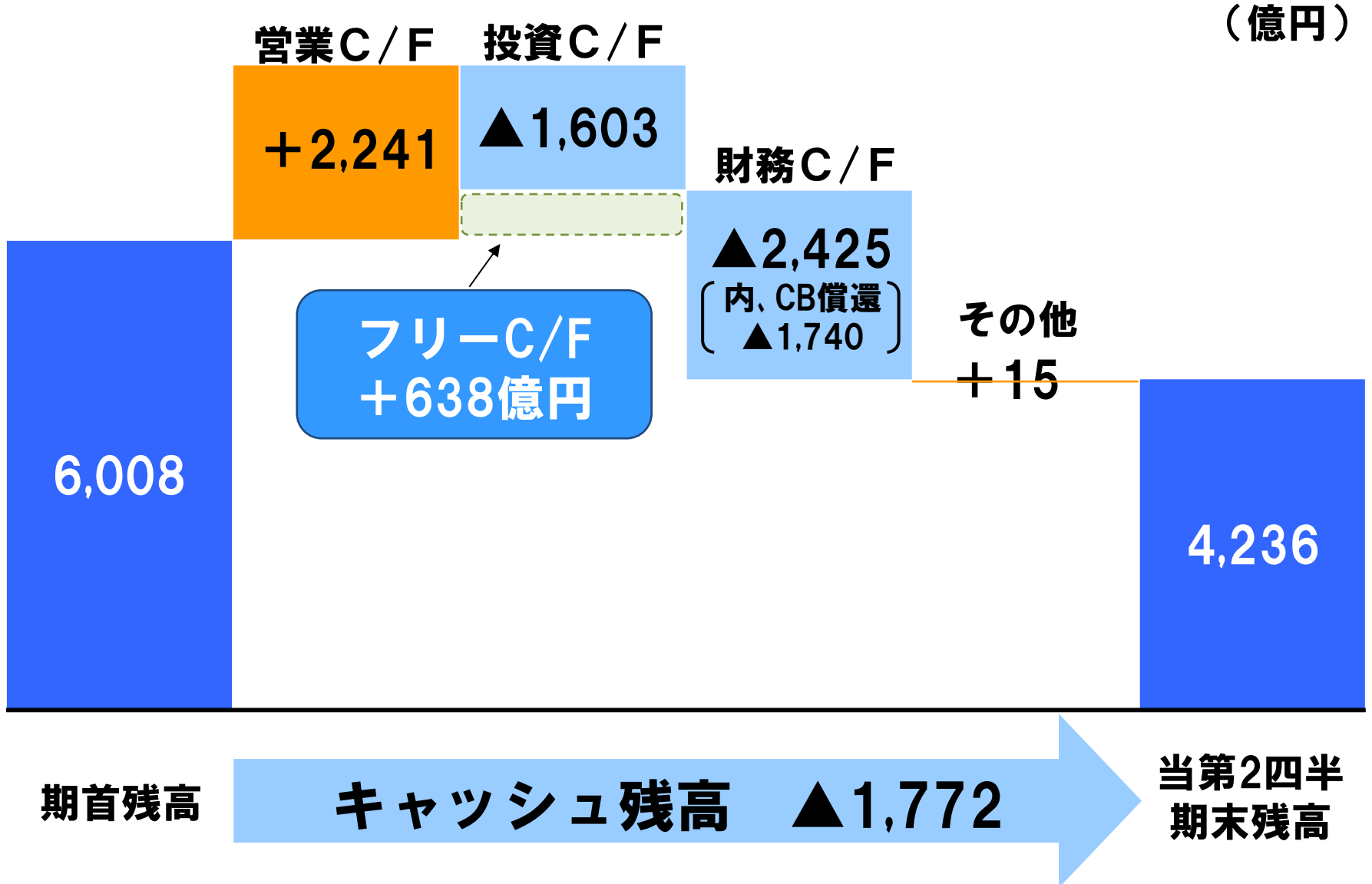
※メキシコペソ▲9億円、ロシアルーブル▲5億円 他

連結：設備投資、減価償却費、 研究開発費、及び有利子負債残高

(億円)

	当第2四半期 ('18/4-9)	前年同期 ('17/4-9)	増 減
(当社単独)	257	215	+42
(子 会 社)	1,063	520	+543
設 備 投 資	1,320	735	+585
減価償却費	642	743	▲101
研究開発費	718	654	+64

	当第2四半期末	前年同期末		前期末	
	('18/9末)	('17/9末)	増 減	('18/3末)	増 減
有利子負債残高	3,815	6,418	▲2,603	5,779	▲1,964



連結：事業別業績 (売上高・営業利益)

(億円)

20,000
16,000
12,000
8,000
4,000
0

《四輪》 売上高

+922 (+5.5%)

16,691 17,613



《二輪》 売上高

+19 (+1.5%)

Access125
(India)



V-Strom650XT



1,244

1,263

《マリン他》 売上高

+42 (+11.1%)

DF350A



376

418

営業利益

+231 (+14.2%)

1,624 1,855

営業利益

+3 (+7.4%)

37

40

営業利益

+22 (+32.6%)

68

90

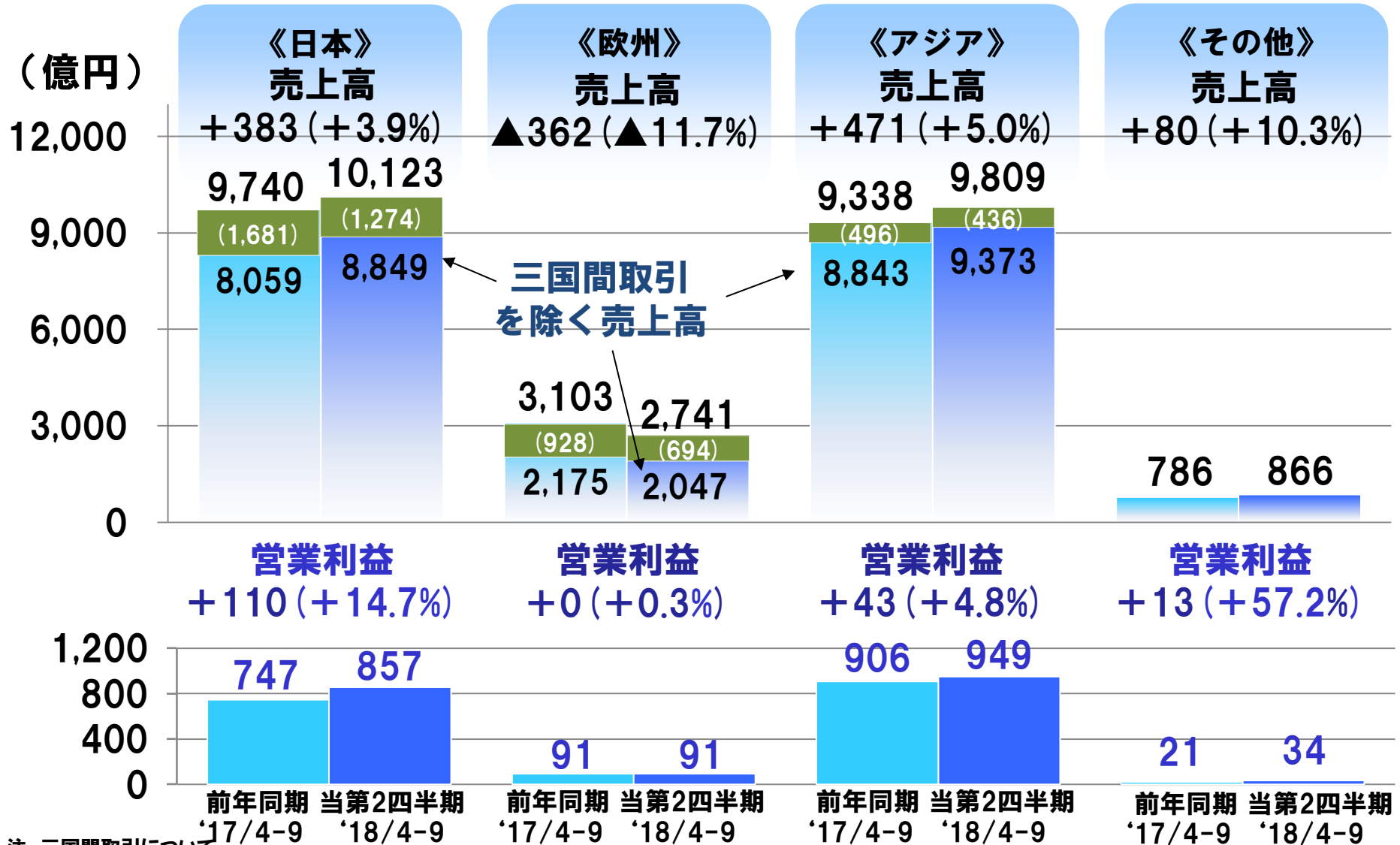
前年同期 '17/4-9 当第2四半期 '18/4-9

前年同期 '17/4-9 当第2四半期 '18/4-9

前年同期 '17/4-9 当第2四半期 '18/4-9



連結：所在地別業績 (売上高・営業利益)



注. 三国間取引について
従来、ハンガリー生産車の欧州域内への子会社向け売上高は、域内子会社間取引として消去されていましたが、取引形態を日本経由の三国間取引に変更したため、日本向け売上高及び日本から欧州への売上高が消去されず、日本・欧州ともに売上高がその分、多く表示されています。アジアについても同様な取引があります。

	当第2四半期末	前年同期末		前期末	
	('18/9末)	('17/9末)	増減	('18/3末)	増減
連結 子会社数	131社	136社	▲5社	131社	±0社
持分法適用 関連会社数	28社	33社	▲5社	31社	▲3社
従業員数	67,854人	65,056人	+2,798人	65,179人	+2,675人

第2四半期実績に加え、販売・為替見通し等を反映

(億円)	今回 通期予想	前期比較		前回予想比較	
		前期実績	増減	前回予想	増減
売上高	38,000	37,572	+428	38,000	±0
営業利益	3,500	3,742	▲242	3,400	+100
経常利益	3,900	3,828	+72	3,500	+400
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,200	2,157	+43	2,050	+150
増減 要因	売上・構成変化等	+408	+1,030	▲2	+410
	原価低減	+270	+266	+280	▲10
	為替影響	▲400	+383	▲220	▲180
	諸経費等の増	▲320	▲650	▲200	▲120
	研究開発費の増	▲200	▲79	▲200	±0
	減価償却費の増減	-	+125	-	-
計	▲242	+1,075	▲342	+100	
設備投資	2,500	2,134	+366	2,500	±0
減価償却費	1,500	1,509	▲9	1,500	±0
研究開発費	1,600	1,394	+206	1,600	±0

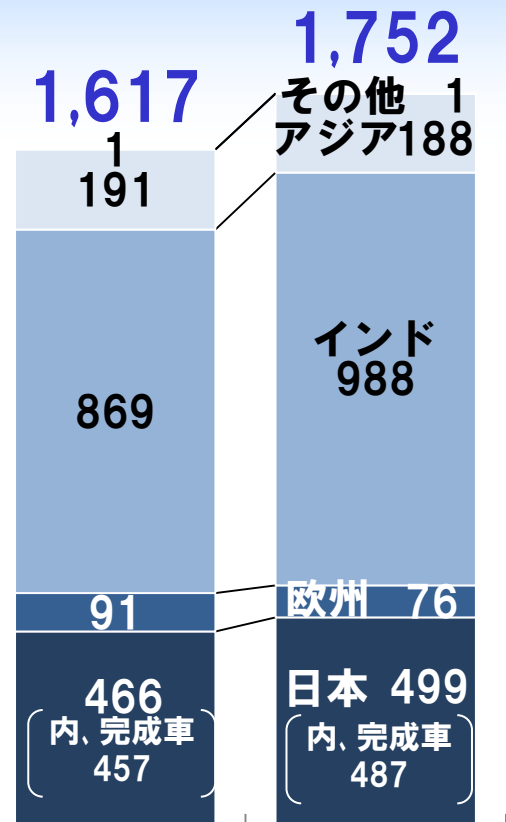
新興国通貨を中心に円高方向に見直し

	今回予想 (2018.4~2019.3)			為替影響	前期比較 (2017.4~2018.3)		前回予想比較 (2018.4~2019.3)	
	上期実績	下期予想	通期予想		通期実績	増減	通期予想	増減
米ドル	110円	105円	108円	▲24億円	111円	▲3円	105円	+3円
ユーロ	130円	130円	130円	+3億円	130円	±0円	130円	±0円
インド ルピー	1.62円	1.50円	1.56円	▲269億円	1.73円	▲0.17円	1.65円	▲0.09円
インドネシア ルピア※	0.78円	0.75円	0.77円	▲24億円	0.83円	▲0.06円	0.78円	▲0.01円
タイ バーツ	3.40円	3.30円	3.35円	+0億円	3.36円	▲0.01円	3.30円	+0.05円
パキスタン ルピー	0.92円	0.85円	0.89円	▲43億円	1.04円	▲0.15円	0.95円	▲0.06円
その他通貨				▲43億円				
為替影響額 計				▲400億円				

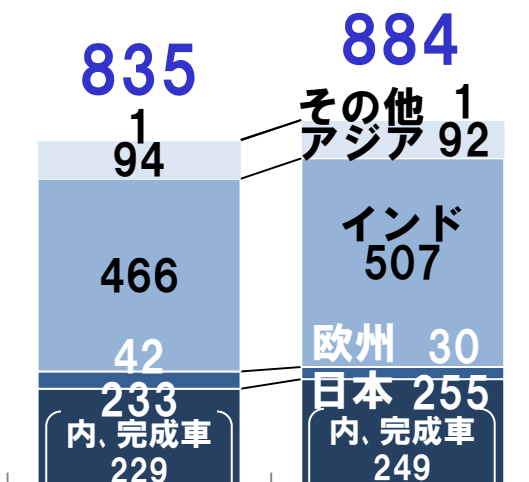
※インドネシアルピアは100ルピア当りのレート

1,752千台で第2四半期としては過去最高

《4~9月比較》
+135千台 (+8.3%)



《内、7~9月比較》
+49千台 (+5.9%)
(千台)



●当期（4~9月）の世界生産

- 1,752千台（前年同期比+8.3%）で、過去最高を更新
 - インド 988千台（同+13.6%）
 - 日本 499千台（同+ 7.2%）
 - 欧州 76千台（同▲16.1%）
 - インドを除くアジアは 188千台（同▲ 1.5%）
- (内訳)
- パキスタン 68千台（同+ 9.2%）
 - インドネシア 63千台（同+19.1%）
 - タイ 30千台（同+ 6.6%）
 - 中国 22千台（同▲52.2%）
 - ミャンマー 5千台（同+260.5%）

前年同期
'17/4-9

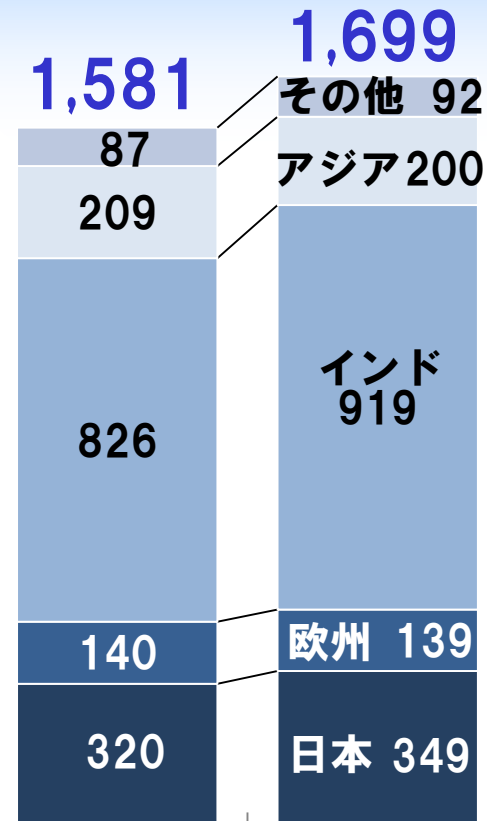
当第2四半期
'18/4-9

前年同期
'17/7-9

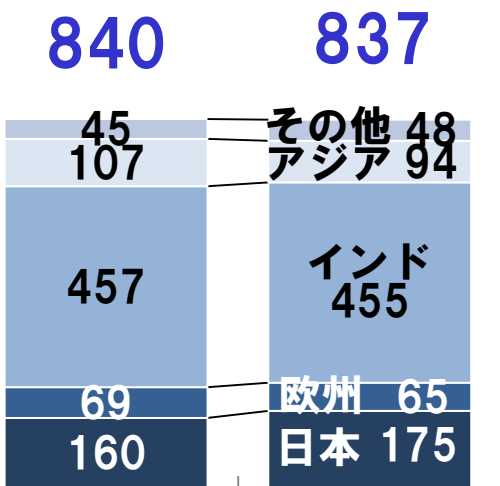
当第2四半期
'18/7-9

世界販売も1,699千台で過去最高を更新

《4~9月比較》
+118千台 (+7.5%)



《内、7~9月比較》
▲3千台 (▲0.3%)
(千台)



●当期（4~9月）の世界販売

- 1,699千台（前年同期比+7.5%）で、過去最高を更新
- 日本（同+9.0%）
- 欧州（同▲0.4%）
- インド（同+11.3%）
- インドを除くアジアは、中国の減少により200千台（同▲4.3%）

●当期（7~9月）の世界販売

- 日本が増加（前年同期比+9.5%）したものの、中国の減少により837千台（同▲0.3%）と前年同期並み

前年同期
'17/4-9

当第2四半期
'18/4-9

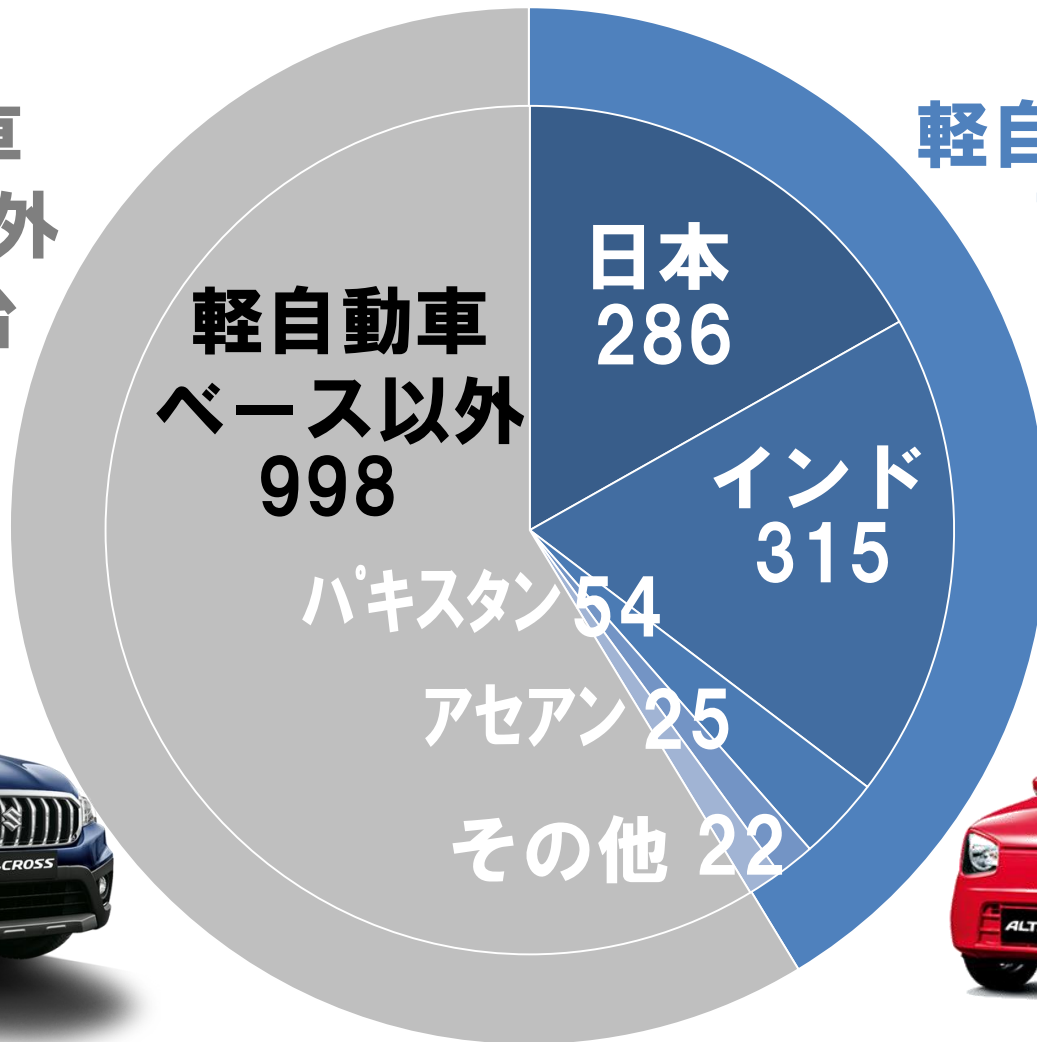
前年同期
'17/7-9

当第2四半期
'18/7-9

世界で活躍する軽自動車

軽自動車
ベース以外
998千台
(59%)

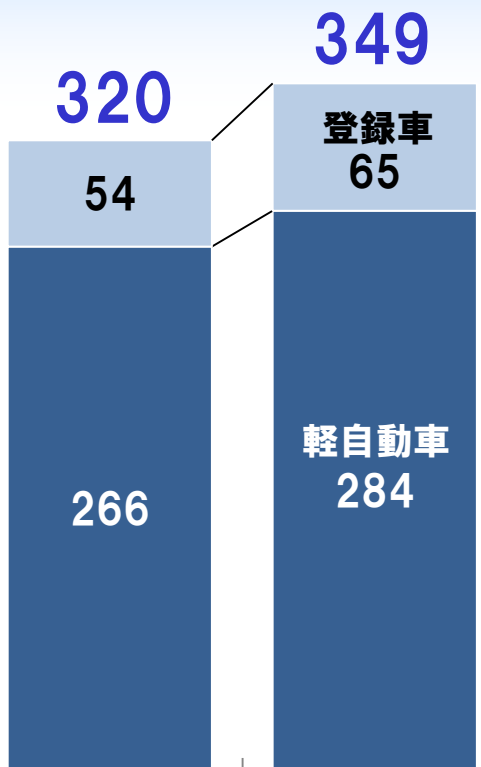
軽自動車ベース
702千台
(41%)



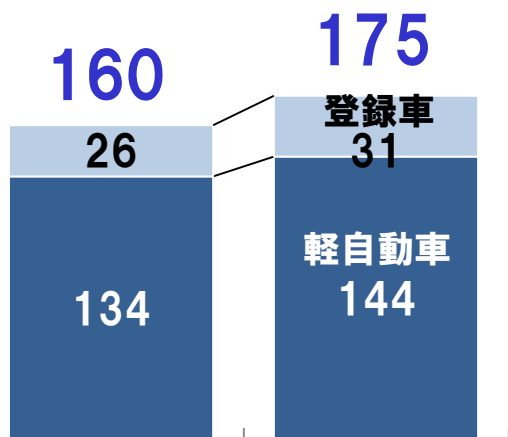
※2018年度4~9月 世界販売1,699千台の内訳(千台)。日本にはジムニーシエラ(登録車)を含む。

「スペーシア」「クロスビー」など新型車が貢献

《4~9月比較》
+29千台 (+9.0%)



《内、7~9月比較》
+15千台 (+9.5%)
(千台)



- 当期 (4~9月) の日本販売
 - ・ 349千台 (前年同期比+9.0%)
 - ・ 軽自動車「スペーシア」、登録車「クロスビー」など新型車が貢献

- トピックス
 - ・ 新型「ジムニー」、新型「ジムニーシエラ」が「グッドデザイン金賞」を受賞



前年同期
'17/4-9

当第2四半期
'18/4-9

前年同期
'17/7-9

当第2四半期
'18/7-9



GOOD DESIGN AWARD 2018
グッドデザイン金賞

「スイフト」「イグニス」の販売が堅調に推移

●当期（4～9月）の欧州販売

- ・欧州全体では、「スイフト」、「イグニス」の販売が堅調に推移し、前年同期並み

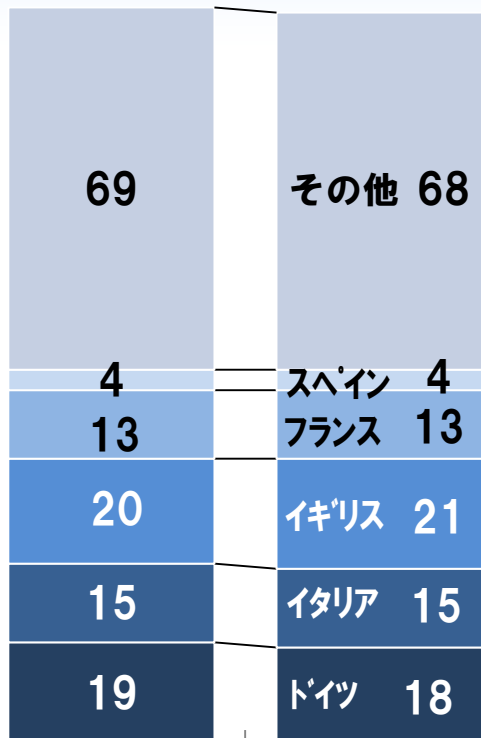
●当期（7～9月）の欧州販売

- ・欧州排ガス法規対応に伴うモデル切替により、一時的にハンガリー工場の生産が減少し前年同期割れ（前年同期比▲6.9%）

《4～9月比較》

▲1千台（▲0.4%）

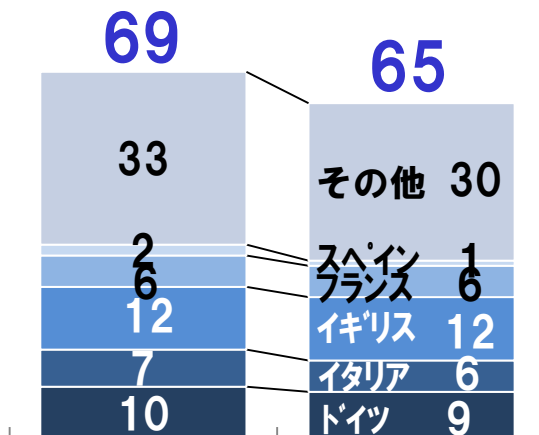
140 139



《内、7～9月比較》

▲5千台（▲6.9%）

（千台）



前年同期
'17/4-9

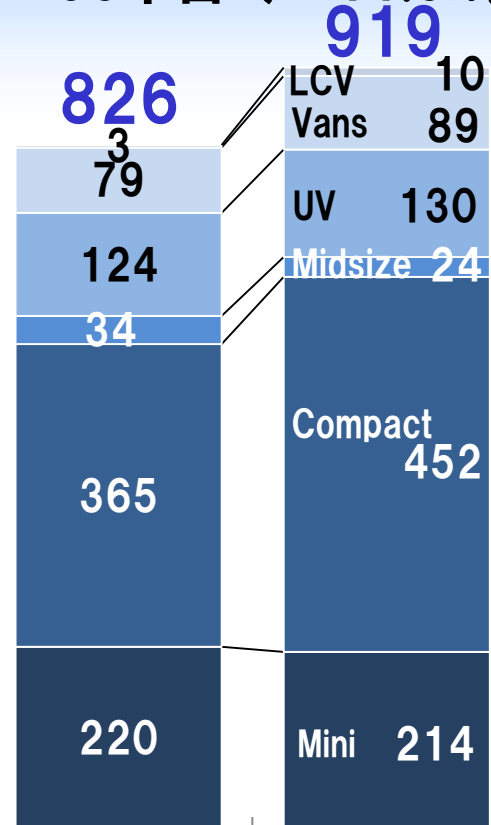
当第2四半期
'18/4-9

前年同期
'17/7-9

当第2四半期
'18/7-9

インドの販売台数は過去最高を更新

《4～9月比較》
+93千台（+11.3%）

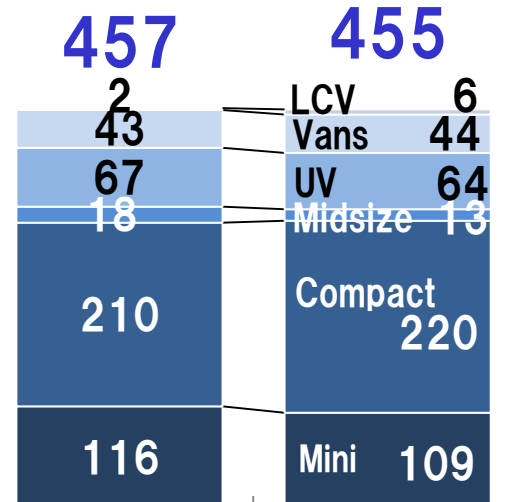


前年同期
'17/4-9

当第2四半期
'18/4-9

《内、7～9月比較》
▲2千台（▲0.4%）
（千台）

※LCV=Light Commercial Vehicles
UV =Utilities Vehicles



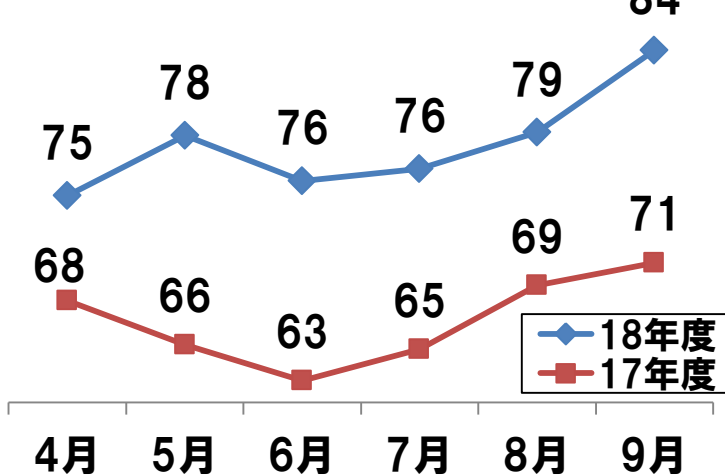
前年同期
'17/7-9

当第2四半期
'18/7-9

●当期のインド販売

- ・4～9月累計はコンパクトカーの伸長等により過去最高を更新
- ・但し、7～9月は水害等の影響もあり、前年同期並み
- ・足元の燃料価格は、過去最高値を更新

ガソリン価格推移※（ルピー/L）



※デリ一月末価格(小数点以下四捨五入)

インド初のリチウムイオン電池搭載ハイブリッド車

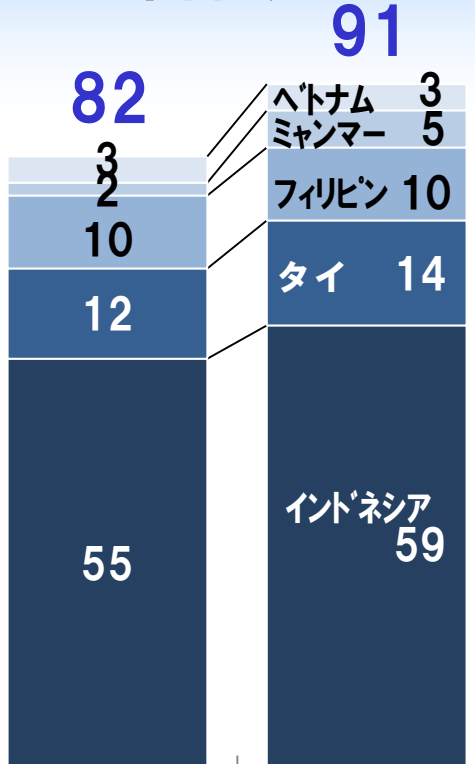
●8月に新型「シアズ」を発売

- ・「シアズ」は、2014年の発売以来、22万台を販売（8月現在）するなど、中型プレミアムセダンとして高い人気。
- ・今回の改良により、ガソリンエンジン車は、インド初のリチウムイオン電池を搭載したマイルドハイブリッド車となった。



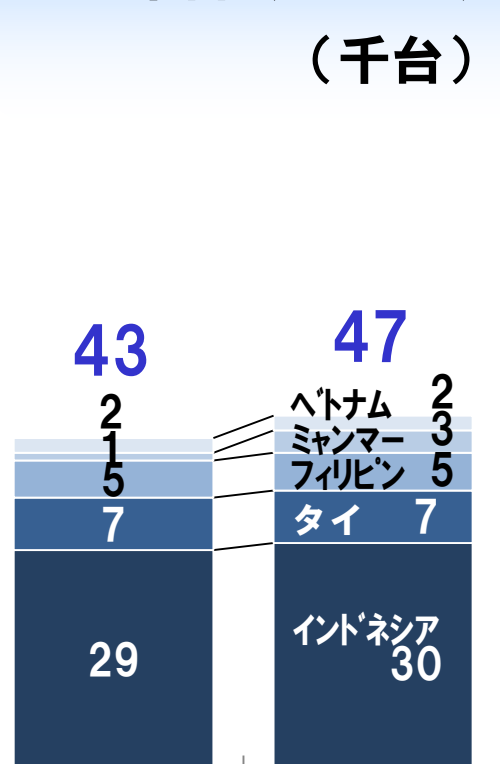
インドネシア、タイ、ミャンマーの販売増により増加

《4～9月比較》
+10千台（+12.0%）



前年同期 '17/4-9 当第2四半期 '18/4-9

《内、7～9月比較》
+4千台（+8.7%）



前年同期 '17/7-9 当第2四半期 '18/7-9

●当期（4～9月）アセアン販売

- ・アセアン5カ国※合計で91千台（前年同期比+12.0%）
- ・インドネシアは商用車の復調もあり、前年同期比+7.3%
- ・タイは「スイフト」投入等により、前年同期比+19.5%
- ・ミャンマーが大幅伸長

●トピックス

- ・ミャンマーで4車種目の現地生産車となる新型「スイフト」発売（10月）

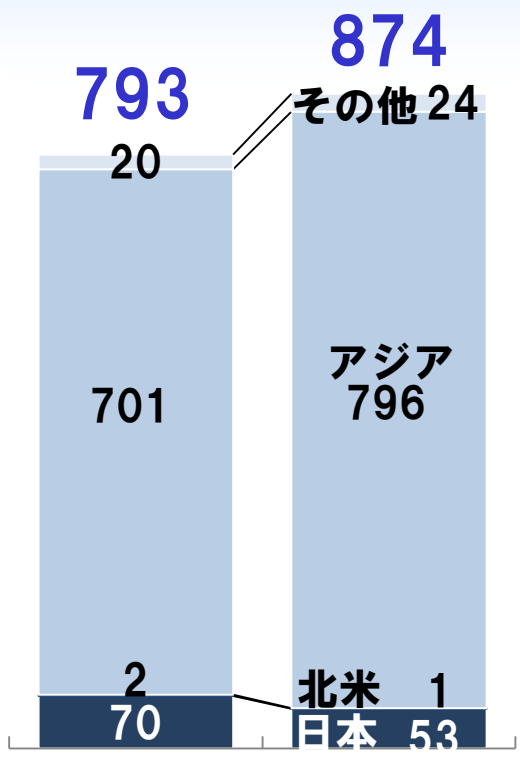


10月、ヤンゴンで行われた「スイフト」発表会

※アセアン：インドネシア、タイ、フィリピン、ミャンマー、ベトナム 5ヶ国合計

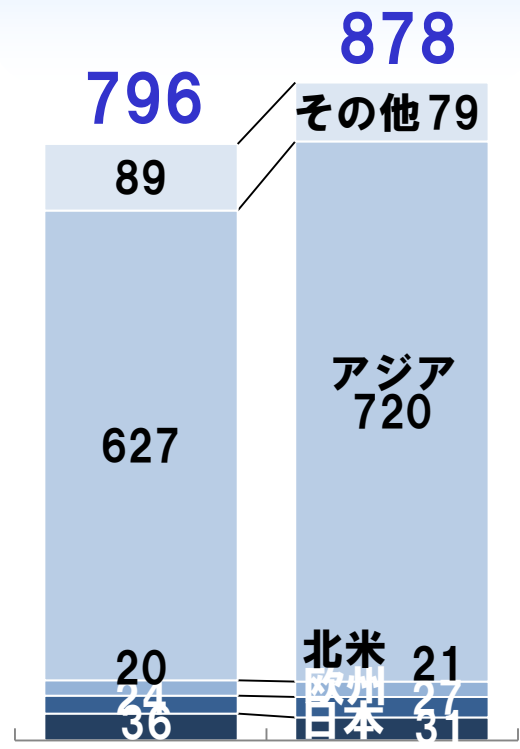
生産・販売ともに増加

◀ 4~9月生産 ▶
+81千台 (+10.2%)



前年同期 '17/4-9 当第2四半期 '18/4-9

◀ 4~9月販売 ▶
+82千台 (+10.2%)
(千台)



前年同期 '17/4-9 当第2四半期 '18/4-9

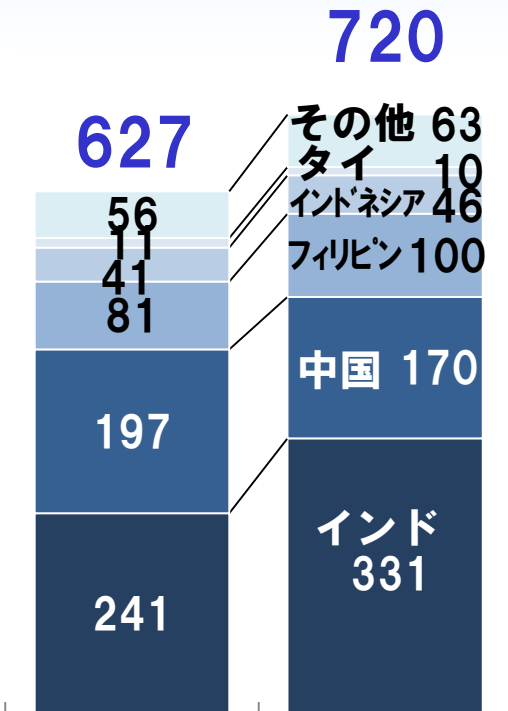
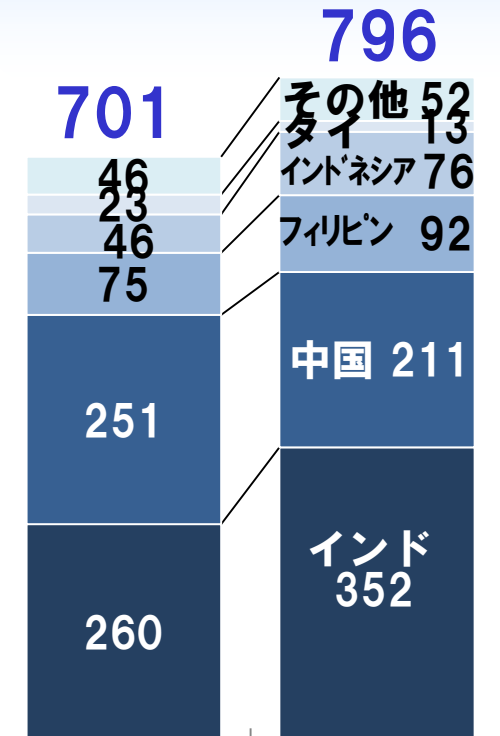
● 当期 (4~9月) の二輪車

- 二輪車の世界生産は874千台で前年同期比+10.2%
- 二輪車の世界販売は878千台で前年同期比+10.2%

インド、インドネシア等で増加

《 4~9月生産 》
+95千台 (+13.5%)

《 4~9月販売 》
+93千台 (+14.8%)
(千台)



● 当期（4~9月）アジア販売

- ・アジアの販売は、インド、インドネシア等で増加し、720千台（前年同期比+14.8%）
- ・インドは「アクセス」の好調が続く（同+37.1%）
- ・インドネシアは「NEX II」投入等により拡大（同+12.8%）

● トピックス

- ・インドで125ccスクーター「BURGMAN STREET」を発売（7月）



前年同期
'17/4-9

当第2四半期
'18/4-9

前年同期
'17/4-9

当第2四半期
'18/4-9

鍛錬を重ねた日本刀のような個性的かつ前衛的なデザイン

●1980年発表の「GSX1100S KATANA」について

- ・1980年のケルンモーターショーに出品
- ・日本刀をイメージした前衛的なデザインで、世界中のバイクファンから注目
- ・1981年から全世界で発売



●新型「KATANA」について

- ・10月、ドイツ・ケルンの二輪車国際見本市「インターモト」にて発表
- ・「GSX1100S KATANA」をモチーフに、現代風にアレンジ
- ・「GSX-R1000」をベースに改良した999cm³直列4気筒エンジン
- ・浜松工場で生産し、2019年春より欧州を中心に販売を開始



四輪車、二輪車ともに上方修正

(千台)	通期生産台数				
	予想 (18年度)	前期実績 (17年度)		前回予 想から の修正	
		増減	増減率		

(千台)	通期販売台数				
	予想 (18年度)	前期実績 (17年度)		前回予 想から の修正	
		増減	増減率		

<四輪車>

日本	1,010	971	+39	+4.0%	+29
欧州	172	180	▲8	▲4.6%	▲1
アジア	2,292	2,185	+107	+4.9%	+35
その他	4	2	+2	+75.0%	+2
合計	3,478	3,338	+140	+4.2%	+65

日本	697	668	+29	+4.3%	+22
欧州	280	281	▲1	▲0.3%	±0
アジア	2,173	2,093	+80	+3.8%	+16
その他	188	182	+6	+3.6%	+1
合計	3,338	3,224	+114	+3.5%	+39

<二輪車>

日本	123	152	▲29	▲19.2%	▲12
欧州	—	—	—	—	—
北米	4	4	▲0	▲6.6%	±0
アジア	1,545	1,431	+114	+7.9%	+49
その他	49	39	+10	+25.5%	▲1
合計	1,721	1,627	+94	+5.8%	+36

日本	63	60	+3	+5.9%	▲1
欧州	48	40	+8	+20.0%	▲2
北米	38	35	+3	+7.8%	▲2
アジア	1,398	1,261	+137	+10.9%	+81
その他	161	184	▲23	▲12.6%	▲14
合計	1,708	1,580	+128	+8.1%	+62

8月の株価上昇により転換請求が進行

- ・ 2016年4月に2,000億円発行（5年債1,000億円、7年債1,000億円）
- ・ 8月の株価上昇により転換請求が進み、9月末時点でCB残高は200億円

希薄化抑制
スキームの効果

- ・ 9月末までの累計で現金1,800億円と19百万株の自己株式を交付
⇒ 転換は通常CB（44百万株）の半分に以下に抑制
- ・ 自己株式除く発行済株式数の増加によりEPSは若干低下するが、ROEは低下しない

CB残高 1,942億円

1,941億円

発行済株式数
自己株式数

491百万株
49百万株

491百万株
49百万株

491百万株
30百万株

自己株式除く
発行済株式数

442百万株

442百万株

461百万株

200億円

18.3末

18.6末

18.9末

中間配当、期末配当予想ともに前回予想を据置き

	当期配当	前期実績比較		前回予想比較	
		前期実績	増減	前回予想	増減
中間配当	37円	30円	+ 7円	37円 (予想)	± 0円
期末配当	37円 (予想)	44円	▲ 7円	37円 (予想)	± 0円
年間配当	74円 (予想)	74円	± 0円	74円 (予想)	± 0円

2019年3月期 第2四半期決算説明会



New HUSTLER
Wanderer
Debut!

スズキ株式会社

将来予想に関する注意事項

- ※このプレゼンテーション資料に記載した将来予想は、現時点で入手可能な情報及び仮定に基づき当社が判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
- ※実際には、様々な要因の変化により大きく異なることがありますことをご承知おき下さい。
- ※実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済情勢及び需要の動向、為替相場の変動(主に米ドル／円相場、ユーロ／円相場、インドルピー／円相場)などが含まれます。